

香川県建築士会 女性委員会

会員数 110名 1990年設立

平成21年度は青年・女性建築士の集い中四国ブロック香川大会の年であった。

香川県のまちの表情は、戦後の著名建築家、丹下健三・大江宏・芦原義信・大高正人などの近代建築と、ジョージ・ナカシマ・剣持勇らの家具、イサム・ノグチ・流政之などの彫刻作品等が調和してつくっている。香川県には、日本のモダニズム建築・D O C O M O 100選の香川県庁舎（現・香川県庁舎東館）・百十四銀行本店・坂出人工土地の3つがある。経済効率、耐震性などの理由により取り壊しの危機を迎えているモダニズム建築が数多くある中、これらの建築物は香川という地域の中で、地域それらの建築物等を中心とした「香川県の建築マップ」を作り、中四国ブロックの青年・女性建築士と、一般参加の県民と共に知って・感じて・考える大会となった。

この大会により生まれた女性委員会の会員相互の、また青年委員会との連携の広がり、重層的な和となって日常の業務の中にも生かされていくことと思う。



○一般市民・県民に建築士を知ってもらう

・香川県の「09香川まちめぐり・てくてくさぬき」に協力し、「香川県庁舎旧本館と周辺の近代建築」を県民と共に歩き、近代建築と一緒に知って・感じて・考えた。建築士というものを一般県民に広く知ってもらう機会になった。



・地域材の利用促進と森林整備の推進を図るため、香川流域森林・林業活性化センター及び徳島県吉野川（三好）流域林業活性化センターに協力して、一般市民向けに木造住宅の無料相談会を実施している。この住宅相談から、地域材を使った住宅



○建築士として地域を知る

身近な自然素材を建築素材として活かし、高温多湿な気候・風土にも適応している「奥祖谷の集落と民家」「土佐・奈半利と吉良川の古民家の街並み」などを探訪・見学し、現代を生きる我々にとっての心地よい住まいのあり方を模索している。他県の建築士会の方々との交流もあった。



○建築士としての学習会

地域材の利用（森林整備・間伐材の利用）促進のための木造住宅の学習会を行った。快適な木の住まい・自然素材の家づくりの設計をされている三澤文子氏と三澤康彦氏を迎えて「木構造をふまえた住宅のプラン・デザインのあり方」の学習会を

○今後の課題

発足当初、30数名で産声を上げた会も4倍弱の人数に増え、その間、常任理事会、全国女性建築士連絡協議会への参加と活動の場は広がったものの、委員会事業へ参加する顔ぶれはよく似ており、育児、家事、介護、仕事と忙しい中、如何にこの人数を増やしていくかが課題である。

又、全会員数の6%しか女性メンバーはおらず、会員数の増強も今後の課題である。

今年、20年を迎え続けてきた女性委員会である。今後も魅力ある内容で更なる活動の場を広げて行きたいと思う。